

アジアこども会議



- 日 時 2006年7月25日(火) 14:00~16:35
- 会 場 富士屋ホテル
- 後 援 外務省、文部科学省、環境省、山梨県、山梨県教育委員会、甲府市、甲府市教育委員会、富士河口湖町、富士河口湖町教育委員会、NHK、フジテレビ、テレビ朝日、朝日学生新聞社
- 助 成 財団法人長岡育英会 地球環境基金
- 協 力 全日空
- 会議参加者 コンクール受賞者及び野口健環境学校の子供たち
- イベントの内容 受賞者及、その発表を「こどもアジェンダ21宣言」としてまとめ、環境省総合環境政策局環境政策局長(環境大臣代理)に提出する。
- 会議のテーマ 『富士山から環境を考える身近な環境問題』
- 司会進行 アルピニスト・野口健

* プログラム *

高円宮妃殿下ご入場
主催者代表挨拶<地球こどもクラブ 田中豊蔵理事>
第13回アジアこども会議
こどもアジェンダ21宣言書とりまとめ・環境省総合環境政策局長へ提出
高円宮妃殿下ご退席

アジア子ども会議内容

会議テーマ「富士山から環境を考える身近な環境問題」

今回のアジア子ども会議は、アルピニストの野口健さんに会議の司会・進行をお願いしました。アジアの子供たちが計9つのテーブルに分かれ、意見を出し合い各班ごとにまとめて発表してもらいました。



「A班」

まずゴミを拾うということ。次はゴミを捨てられないようにすること。例えば看板を立てたり、監視員が見回りをすること。あともう一つが、無駄遣いをするのをやめる。いらぬ物は買わない。必要なか、ほしい物なのかを見極めようということです。

「B班」

みんなで何かを予防しようというアイデアと、それから制限をしようというアイデアに分かれています。予防しようというアイデアには、ゴミ袋を登山する人に配っていかうとか、ゴミ箱の設置場所を増やす、警備員を置いたらどうだろうか、ガイド制度を導入し、登山をする場所で1万円を払っておいて、自分が登山する時に持って行った荷物が減っていたら、1万円が戻ってこない。ゴミを拾って来るなどで持っている荷物が増えていたら、1g 10円でお金を追加して1万円を返してあげる。こういうちょっとサービスのものをやろうなど。制限の方では、登山で持っていけるものをあらかじめ決めてしまう。それから、生涯で登れる回数を決める。入山料の話もでした。登山する前に登山者の荷物をチェックする。それで、下りて来た時にもチェックする。あとはゴミを捨てた時の罰金制度というアイデアもありました。



「C班」

大人の人にやってもらいたいこと、自分たち出来ること、あと一緒にやりたいことの三つです。大人の人にやってもらいたいことは、予防策で、見張りをつけるとか防犯カメラをつけてもらうとか、あと車を巡回させるとかゴミを捨てたら罰金制度を設けるなど。それと、粗大ゴミの今のリサイクル料金をもう少し安くするように、業界に働き掛けてもらいたいというのがありました。こどもたちが自分でできるというのが、注意書きのポスターを書く、実際に目の前にあるゴミを拾う。観光地などで、例えば富士山だったら5合目などで呼びかけたり、自分たちの学校でそのことを広めるってことです。大人と一緒にやりたい事は、「NHKでゴミを拾っているところを生中継して放送する。」とか、そういったイベント、偉い人と一緒にゴミをその場で拾うっていうのがありました。ただゴミを捨てないでとかゴミと一緒に拾おうだけじゃなくて、ゴミを捨てたら地球はどうなるか？そこまでメッセージとして伝えたいという意見がありました。



「D班」

ゴミ拾いをしたらポイントが貯まって何か特典があるようにする、現実的にいっぱい拾うとその分のお金がもらえる。それと、近くの売店では環境に優しい物だけ売る。隠しカメラを設置するとか、ゴミ置き場の数を増やすとか、立ち入りできる区域を制限してしまう。そうするとゴミを捨てる場所も少なくなってあまりゴミを捨てられないのではないかという意見がありました。あとは、各商品に買った人のIDを付ける。それで捨てたら誰が捨てたかばれるようにしちゃうという意見が出ました。

「E班」

ここのテーブルは、フィジーの子とガラパゴスの子がいます、彼ら昨日の夜に日本に着いたので、一緒に富士山の樹海の清掃ができなかったので、彼らが自分たちの国、地域でどんな活動をしてるか話してくれました。まずフィジーにはゴミなんてないよと言っていました。彼らの村では、ゴミを減多に出さないけれど、村で毎週土曜日に、村人全員で清掃活動を行っているそうです。なので村にはゴミがないと言われました。それからガラパゴスの人達は、ゾウガメ友の会という地域のボランティアサークル活動に参加しているそうです。動物に対する意識が非常に強く、動物を守ろうとしている絵をたくさん描いてくれました。一方ガラパゴスではゴミが沢山あると言っており、誰がそのゴミを捨てるのか聞いたら、町の人が捨てることもあるし、もちろん観光客が捨てることもあるそうです。どういうゴミかという、プラスチック・ビニール袋・空き缶・どこからか流れついたような大きな冷蔵庫もあるそうです。ガラパゴスの周りを廻っているクルーズ船から捨てられるものもあるし、故障した船からたくさんのオイルが流れだして、魚が死んだりとか、船の中にあった生活用品が全部海に沈んでしまったりして、汚染されたそうです。そういった中で、キャンペーンを組んでビーチのゴミ拾いをしたり、ポスターをいろんな場所に貼る活動をしているそうです。



「F班」

私達の班は大きく分けて、一人でもできることと、一人ではできないことと整理をしてみました。まず一人でもできることとして、捨てない・ゴミ拾いを積極的にする・自分がしっかり自覚を持ち、捨てないように出さないようにするというものです。もう一つは、ゴミを出さないようにしたり、どういふゴミの出し方をすればいいかなどを新聞に載せるなどして伝えるということです。あとは罰金制度を導入する。ゴミになる物は作らない。ゴミ箱を増やす。自動販売機をなくす。立ち入り制限をするなどです。

「G班」

このテーブルは、インドとシンガポールの子どもたちが座っているところです。ゴミを捨てさせない規制に関することをみんなで話し合いました。シンガポールではすごくゴミが少ない国で、ゴミが町に捨ててあっても、朝に必ず清掃員がゴミを拾うので、町は毎朝きれいです。なので、ゴミがあまり見あたらないと言っていました。インドの伝統的な素焼きの食器を使えばゴミとして捨てても土に還るそうです。シンガポールの子は、ゴミを捨てた人に対して犯罪者扱いにして、罰金を払わせるようにするなどの意見が特徴的でした。



「H班」

アイデアとしては約40個近く出ました。教育の問題とか、看板を立てるとか、みんなで清掃活動するとか、ゴミ箱を作るとか、罰金制度とかです。この中から、もっと子どもが親や周りの人を説得する、それが一番いいのではないかと。それと、ゴミが出た後どうなるかというそういうことの教育をするべきです。それから、冷蔵庫が夜捨てられているということから、見つけたら通報するなどです。

「I班」

私達のテーブルは韓国、タイ、インドネシアの子ども達がいいます。子供の頃からリサイクル・リユースに関する教育が大事だと言う意見が出ました。特徴的なのを三つほど紹介します、まずインドネシアでは今までゴミをそのまま埋めていたそうです。それを燃やして捨てるようにすれば、少なくなるのではということで、今そうしているそうです。それから、ゴミ拾いを皆さんも昨日したと思うんですけど、ただゴミを拾うのではなく、イベントを主催して学校や自治体関係なく、ゴミ拾いを競争して商品や賞金が出るようにしたら、みんな頑張ってゴミを拾うのではないかと意見もありました。それから、同じくゴミ拾いに関する事で、古着で作ったカバンや使い古しのバッグをゴミかばんとして持って、ゴミをいつでも拾えるようにしたらいいのではないかとアイデアが出ました。

こどもアジェンダ21 宣言まとめ&署名



ゴミになるようなものは、なるべく使わないように心がけ、まずは自分たちの身近な所からゴミを無くして行こうとの決意を込めて今年の「こどもアジェンダ21宣言書」が完成いたしました。

こどもアジェンダ21宣言書

【私達は行動することによってゴミのない地球を目指します。】



代表して日本の舛本さんと中国のシエンヒさんが、田村義雄 環境省総合環境政策局長に宣言書を手渡しました。